



蒲生東小学校「学校だより」
東っ子

令和3年6月15日発行
文責 山田 淳

No.3



地域の力をお借りして体験活動を進めています。

本校には、平成13年に立ち上げられたボランティア組織があります。今年度で20周年を迎えます。毎月の第2火曜日を定例として、会議を行っています。毎回10名程度のボランティアと教師が数名参加しています。学校から体験活動の引率等のボランティアをお願いし、都合が合う人が参加を表明していき、支援者が埋まっていきます。また、実施した活動の反省も行い、次回の活動に生かすようにしています。会の名前は、「三弓会」と言います。三つの矢は、「ボランティア」「先生」「子ども」を指し、「ボランティアよし、先生よし、子どもよし、みんなが喜びあって、活動の最後に『サンキュー』と言い合えるようにしたい。」という願いがあるそうです。

5/14 5年田植え

田んぼに水を入れた状態での泥遊び、代掻きの見学を経て、いよいよ田植えの日を迎えました。ボランティアの方が、紙芝居のような自作の資料を使って、植え方を教えていただいたので、たいへん上手にそして丁寧に稲を植えることができました。桜川東の田中さんが水の管理や子どもたちだけではできない部分を機械を使って、助けていただいています。



5/26 3年町探検(川合方面)

桜川、石塔方面に続いて3回目の町探検でした。地域の方から各ポイントでお話を聞きました。上本郷のお寺では、トイレを借りたり、境内に入れていただいたり、住職よりお話をしていただいたり、たいへんお世話になりました。ボランティアさんから聞いた人魚伝説の話が子どもたちの興味を引き付けていました。



5/18 2年桜川駅の探検

駅にあるいろいろなものを見つけることとともに、駅長さんに扮したボランティアさんから昔の駅のことを聞き、地域の歴史に興味を持つ子もいました。電車の到着・出発の場面を近くで観察できたこともいい体験となりました。



6/7 6年あかね古墳見学

自転車で行きました。危険な横断場所に立っていただいたり、自転車で追走していただいたり、子どもの安全のため協力をいただきました。現地では、4人のボランティアさんが昔風の衣装で、2つの古墳のことや出土品等を丁寧に教えていただきました。



6/16 3年寺嶋製作所見学 6/23 2年いきもの探検(川) 6/30 1年いちにのさんぽを予定しています。



3・4年校外学習

5月31日(月)、今年度最初のバスを使った校外学習を実施しました。「ホールの子事業(県)補助金」を利用しましたので、交通費をととても節約できました。



びわ湖ホールでは、京都市交響楽団のすばらしい演奏に聞き入っていました。子ども用の演出もあり、楽しくオーケストラを学ぶことができました。

菜の花館では、菜種油やバイオ燃料のことを学習しました。実際にバイオ燃料を作ったり、その燃料を使ったカートに乗ったり、体験を通して学びました。



『まなびの森』(家庭学習)実施にあたって

先日は、家庭学習『まなびの森』にご協力いただきありがとうございました。いろいろな問題を通して、家庭での学習をより豊かにすることや考えることのおもしろさ、自分の思いを表現することなどに挑戦していきます。この学習は、家族とたくさん話し、考えながら取り組んでほしいと願っています。難しいときは、家族のみんなで協力して取り組んでください。学期に1回実施する予定です。

コドモンのカレンダーを更新しました。

今年度は、学校だよりの中で月の行事予定を掲載しません。コドモンのカレンダーに入れることにしました。15日頃に次の月の予定を更新します。予定が変更されることがあり、できるだけ更新をしていきますが、学級から出される週計画等が最新のものとしてお取り扱いください。

「大人が動けば、子どもが動く。」

現在、蒲生東小学校の玄関に、上記のことが書かれた滋賀県子ども青少年局が作ったポスターが貼られています。県では、子どもたちが新型コロナウイルス感染症を正しく理解し、生き生きと過ごせるように、子どもたちの笑顔を増やすための行動様式として、「すまいる・あくしょん」を策定され、子どもたちの笑顔を増やすための活動を作り出すために、大人が工夫したり、自ら行動したりすることが大切だと伝えています。

こんな子に育ってほしいと大人は、子どもたちに期待します。その実現のためには、大人自身が動き出す必要があると考えています。環境づくりであるとか、自らがよい見本となるように取り組むとか。

現在、学校では、保護者の皆様のご理解を賜りながら、働き方改革に取り組んでいます。働き方改革は、教育の質を維持しながら進めていかなければなりません。余暇の時間を利用して、教師がいろいろな経験を積み、人間性豊かで魅力ある大人になってほしいと考えています。そんな大人から子どもたちは、様々なことを吸収し、多くのことを学ぶと考えています。

我々大人が子どものために動き出すことは、自分のためにも、子どものためにも、そして社会のためにもつながると考えています。



「すまいる・あくしょん」の詳細はこちらから!